

ご検討いただきたい主な論点について

大阪・関西万博のテーマの具体化及び開催計画の基本的な方向性の検討

1. テーマの具体化

(1) 全般

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、具体的にどのような課題設定をし、どのような成果(レガシー)を得ることを目指すのか。
- 万博開催経験の豊富な国として、万博に新たな付加価値を提供することが期待される中、どのような切り口で、どのような取組を行っていくのか。

(2) SDGsの達成に向けて

- 2030年 SDGsの達成に向けて、万博の場をどのように活用し、どのような解決策を得ることを目指すのか。また、万博での成果を2030年にどうつなげていくのか。
- Society5.0 の実現に向けた取組とどのように連携していくのか。

(3) 地域経済の活性化

- 万博の機会を活かして、どのように経済活性化を図るか。特に、大阪・関西はライフサイエンス分野における研究開発の先進地域であり、その強みをどう活かすのか。
- 外国企業を含めた民間企業の投資を呼び込むような環境整備、ソーシャルイノベーションや起業を促すための取組、大阪に集積する中小企業の高い産業技術の活用などをどのように進めていくか。

(4) 社会実験の推進

- 「未来社会の実験場」として、どのような分野で実証を行い、どのような成果を得ることを目指す場とするのか。(例:モビリティ、都市計画、医療、環境分野)

(5) 共創

- 「People's Living Lab」というコンセプトの下、具体的にどのような仕組みで世界中の人の参画を求め、知恵を集めていくのか。(例:オンライン・プラットフォームの設計・運営、国際的なシンポジウムやアイデアソンの開催)
- 開催準備の段階から、途上国をはじめ、多様な参加国をどのように巻き込んでいくのか。

2. 会場・輸送計画の具体化

(1) 会場計画

- テーマの具体化に向けた議論を踏まえ、どのように会場計画を具体化していくか。
(例: テーマ実現のためにハード面でどのような仕掛けが必要となるか。
テーマ館をどのように企画するか。
環境に優しい会場をどのように実現するか。)
- 来場者にとって快適な空間とするために、どのような工夫が必要か。
(例: 混雑を緩和するために、どのような技術を活かすか。)

(2) 輸送計画

- 想定している来場者数を受け入れるだけのキャパシティがあるのか精査した上で、どのように来場ルートや来場時間の分散を図っていくべきか。
- 地下鉄、シャトルバス以外にどのような輸送手段が検討できるか。(海上・航空等)

3. その他

- 大阪・関西地域にとどまらず、どのように国民的な気運醸成を図るか。また、クリエイターや文化人、一般市民など多様な人々をどのように巻き込んでいくか。
- 関西全域で、どのように万博会場と連携した取組を行っていくか。(例: サテライト的な展示、関連イベントの実施)
- 他の大型イベント(例: G20、東京オリパラ)とどのように連携し、シナジーを作っていくのか。

(以上)